

ハスカップ・初竹の子

平成15年の夏、ある雑誌を見ていたら、北海道で「ハスカップ」という植物が栽培され人気を呼んでいるようでした。写真を見ると、クロマメノキ(日本の山にあるツツジ科の植物でその実がジャムとかジュースになる様な実がなり、利用出来ると書いてあるので仲間で、やってみることにした。

苗の入手は、夏のこの時期には終了してほほとんどのところで、苗はない状態でしたが、函館の方から200本調達出来て、栽培の場所は寒い地方の植物(原産地はシベリア)なので、群馬県赤城山近くの友人の畑を交渉して借りてやってみることにした。

8月下旬、晴天の暑いある日、女性3人男性3人の総勢6人で苗を植えた。とても苗が根付く状態ではないので、水道を引いてきて数時間、水を畑に入れて帰ってきた。1ヶ月後に草刈に行くと、何とか苗は生きていた。

平成16年の春、草刈に行くと、何とか苗に何本かに花がついていた。その2ヶ月後に5~6個の実が採れた。しかし苗は依然として葉も少なく伸びていく気配がない。毎月草刈を続けるだけであるが、根が張れば大きくなるだろうという希望は持っている。

17年5月に5人で草むしりに行くと、今年は葉もたくさん出て花も何本か咲いている。根が伸びてきたのだろうということでこれからが楽しみだ。200本植えた内170本の苗が順調に育ってきている。将来はこのハスカップの実でジャムなどを作り、また仲間で草刈を通じて、この赤城の自然を満喫することにより、健康を推進し、遊びに仕事に精を出すことにしている。



初竹の子

3月の声を聞くと、四国、九州などの西のほうで孟宗竹の子の竹の子が出始めたと言う話が伝わってくる。関東地方ではまだ出ていないので、3月の初めは非常に珍しいものになっている。神奈川県西部の小田原市市近辺では3月下旬から5月はじめが、掘り取る時期になっている。ところが小田原でも2月末から3月初めに竹の子が採れるのです。冬になると、竹の地下茎から翌年の春に竹になる目が少し伸びて地表近くで春を待って止まっているものがあるようです。それが2月頃から日当たりの良い場所などでは少し伸びて、春の節句の時分に採れると言う事です。

広い竹藪の中でどこでも出ると言う事ではなく、出る場所は毎年大体同じところですよ。

そう簡単には見つかりません。足と目で探すわけですが、足先で探って竹の子の穂先のちょっとした感触がわかるように、目は地表の枯葉などが不自然に少し盛り上がっている所など見つけて探すのです。今年も3月上旬に行って、長さ10cmから25cm位の竹の子を25本程採って来ました。

黄色い穂先が1cm位地表に出ているだけです。竹の子全体が黄色で皮は硬くつるつるした状態です。これを実家の父母と私の家で分け合います。

春一番の竹の子は軟らかく風味のある竹の子ご飯にするのが、初春の山の楽しみの一つです。

